

# ぽかぽか 初夏号

三川町公民館図書室だより

2022.6.1



たくさんの新着本が入りました。ぜひ、ご利用ください。



『六つの村を越えて  
髭をなびかせる者』  
西篠奈加：著

江戸中期、幕府では蝦夷地開発が計画されていた。出羽国の貧しい農家に生まれた最上徳内は、師の本多利明の計らいで蝦夷地見分隊に随行する。蝦夷地の雄大で厳しい自然、アイヌの少年や長たちと交流するうち、徳内の中に北方とアイヌへの愛情が育まれていく。アイヌを虐げ、搾取する松前藩に怒りを覚えた徳内は…。自然の猛威、松前藩との確執、幕府の思惑…。それでも最上徳内が貫いた“想い”とは…。



『その日まで』  
瀬戸内寂聴：著



『ノイズ』  
筒井哲也：著



『ひとりでカラ  
カサさしていく』  
江國香織：著



『おわかれはモ  
ーツァルト』  
中山七里：著



『リボルバー』  
原田マハ：著



『一九六一東  
京ハウス』  
真梨幸子：著



『鑑定人氏  
家京太郎』  
中山七里：著



『偽装同盟』  
佐々木譲：著



『教育』  
遠野遥：著



『愚かな薔薇』  
恩田陸：著



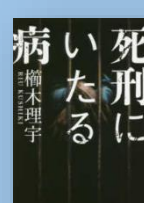
『その日まで』  
瀬戸内寂聴：著



『月夜の森の梟』  
小池真理子：著



『吾妻おもかげ』  
梶よう子：著



『死刑にいたる病』  
榎木理宇：著

鬱屈した日々を送る大学生、笈井雅也に届いた一通の手紙。それは稀代の連続殺人鬼・榛村大和からのものだった。「罪は認めるが、最後の一件だけは冤罪だ。それを証明してくれないか？」パン屋の元店主にして自分のよき理解者だった大和に頼まれ、事件を再調査する雅也。その人生に潜む負の連鎖を知るうち、雅也はなぜか大和に魅せられていく。一つ一つの選択が明らかにする残酷な真実とは。



『絞め殺しの樹』  
河崎秋子：著



『子供は怖い  
夢を見る』  
宇佐美まこと：著



『捜査線上の夕映え』  
有栖川有栖：著

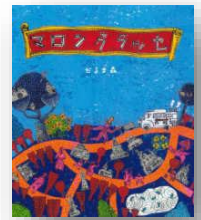


『しんごうきピコリ』  
ザ・キャビンカンパニー：作

信号機が青に変わったら、車はどうするかな？とパトカーが信号機の色を見ながら話をします。ところが、ピコリ！信号機がとつぜん水色に変わりました。なんと車は、さかだちをしなければなりません。信号機がどんどんめずらしい色に変わるたび、車たちにはいろんなことが起こります。ピコリは何色光るのでしょうか？信号機のルールのお話かと思いきや、ふしぎな信号機のピコリに、パトカーと車たちがふりまわされる楽しい絵本。



『ながみちくん  
がわからない』  
数井美治：作



『マロングラッセ』  
だるま森：作



『スプーンとフライパン』  
新井洋行：作



『ぱなしくん』  
柴田ケイコ：作



『宿題ファイター』  
よしながこ  
うたく：作



『でんせつのチ  
ョコレート』  
みやにし  
たつや：作



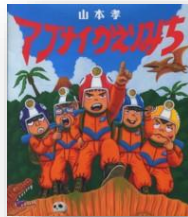
『ぼくのねこ』  
鈴木のりたけ：作

山本孝：作

『ほうかごスペシャルたんけんたい』シリーズ



『アブナイおふるやさん』



『アブナイかえりみち』



『100円たんけん』  
中川ひろたか：作

コンビニや100円ショップはとても便利。でもまちでは100円で何が買える？ぼくとお母さんは、商店街を探検してみることにした。量り売りしているお肉屋さんで、100円分のお肉を買ってみよう。魚屋さんに100円で買えるものはある？1800円のケーキ、100円分ならどのくらい？子どもたちにとって身近な値段「100円」で買えるものをくらべてみながら、お金の役割や物の値段について、考えるきっかけをくれる絵本。読めばふだんのおこづかいの見方がちょっとかわるかも！？親子で楽しめる、はじめてのお金絵本です。

もうすぐ父の日♪ おすすめの絵本

“みやにしたつや” 作品



『パパはウル  
トラセブン』



『ダダダダ・ダ  
ディーマン』



『おとうさん・パパ  
・おとうちゃん』

“高島純” 作品



『おとうさん  
のえほん』



『おとうさんの  
えほんその2』